

宝清寺



宝清寺の境内には、毎年沢山の花が咲きます。
第六十一号より新聞裏面に宝清寺で見られる草花を紹介しています。

Q 「仏教では、「供養のとき、お線香や抹香を焚きますが何故ですか。また、お焼香にはどのような作法があるのですか。」
A 「古代の人々が、よい香りは生者ばかりでなく死者や神にも好まれるものだと考へ、死者や神のための儀式などで、香木や芳香樹脂を焚いたのがお香の起源だといわれています。古代人は芳香の成分には、殺菌などの薬効があることを生活の中で知っており、エジプトのミイラ作りにも防腐作用のある香を用いたという事です。特に熱帯・亜熱帯地方には、芳香植物がたくさん自生しており、腐敗菌や蚊などの害虫を防ぐのに役立つています。因みにクレオパトラの大きな目にアイシャドーのように塗った鮮やかな青色は美のためではなく、虫除けのためだったのです。インドのアーユルヴェーダ医学でも香を塗る療法が重んじられていたようです。日本においても、お香を衣類にたきしめたり、開き香といってお香をたしなむ芸道というのが古くから行われています。私達の先祖は古来から、お香を身体と心の健康のために役立てていたのです。「華厳経」には香の十徳として

春の彼岸

三月十八日(金)～二十四日(木)
は春の彼岸です。遠旅の守護者であるご先祖にお塔婆とお花を供えてお慰めを込めたい。

昨年暮れに、使用していたドコモの携帯電話をソフトバンクのアイフォンに変更した。子供達の勧めがあつたので、変更することに一瞬ためらったが、子供達の「パソコンを持ち歩いているのと同じだし、今までどおり携帯としても使えるよ。」の一言で変更した。最初は慣れなかったが、生来新しいものに挑戦することに関心を持つ性格からか、徐々にではあるが必要な事はほぼ使えるようになった。通話やメール以外に、「年齢早見」「お年忌早見表」「厄年早見表」など、仕事の効率化に重宝している。最近、「格言Free」をダウンロードして暇なときに読んで楽しんでる。格言の中で気になった言葉があつたので

紹介したい。それは、フランスの哲学者・科学者・数学者で、「パスカルの原理」「パスカルの定理」で有名なパスカルの「人間は天使でも獣でもない。だが、不幸なことに、人間は天使のように振る舞おうと欲しながら、まるで獣のように行動する。」という格言です。パスカルはキリスト教に心惹かれ、熱烈な信仰生活に入り、キリスト教弁証論の執筆に励んだが、未完のまま病没したことを考えると、宗教家が発する言葉のようであることもうなずける。パスカルの言葉は現代の政治の混乱や社会の混乱を招いた人間の姿を言い当てているようである。最近の人間に巣くっている『獣』はなにか。それは人間一人一人が持っている『我欲』ではないかと。現代人はあまりにも『利己的』になりすぎていると思われる。『我欲』に裏

打ちされた「無理」がどおり、「道理」が影を潜めた状況にある。日本は江戸の封建時代の、自己犠牲を背にした「利他主義」を不都合と感じ、明治維新を契機に「利己主義」の方向に舵を切った。あまりにも自己中心的な傾向に不都合を感じた明治の文豪夏目漱石は、大学で学生を前に「私の個人主義」というテーマで講演した。人間は自己犠牲の「利他主義」も自分勝手な「利己主義」も民主主義の現代に含みず不都合として、『個人主義』を提唱したのです。『個人主義』の考へを「献血」に例をとってみると、世の中の誰の為に使われるか分らないと思いつても、進んで「献血」をする人を「利他主義」の生き方をする人とし、勧められている「献血」は絶対にしてない人を「利己主義」とも「個人主義」という考へて「気持ちは良いが、他人を生きかす」という考へ方です。子供達のアイフォンの勧めに、当初は「ためらい」を感じながらも、「素直に受け入れた」お陰で、楽しみながら効率の良い生活の道具として手放せない毎日になった。これも小さいながら、「ためらい」という「我欲」を離れ、素直に子供言葉を受け入れたら、素直に子供の言葉を受け入れたら、新しい世界として新鮮さを感じて「参る」という「非日常の行為」によって「参る」という「非日常の行為」によって「気持ちは良いが、他人を生きかす」という考へ方です。子供達のアイフォンの勧めに、当初は「ためらい」を感じながらも、「素直に受け入れた」お陰で、楽しみながら効率の良い生活の道具として手放せない毎日になった。これも小さいながら、「ためらい」という「我欲」を離れ、素直に子供言葉を受け入れたら、素直に子供の言葉を受け入れたら、新しい世界として新鮮さを感じて「参る」という「非日常の行為」によって「参る」という「非日常の行為」によって「気持ちは良いが、他人を生きかす」という考へ方です。

住職ひとくち口法話(第二十五)

お釈迦様は「人生は苦である」と言われ、人生の苦を分類して四苦八苦を説いた。初めの四つの苦は、一、生老病死の四苦である。二、愛別離苦、三、怨憎会苦、七、求不得苦、(いくら求めても得られない苦しみ)、八、五蘊盛苦、(心身に精気がみなぎると色々な煩惱が起こる。昔い頃は元気が良すぎ、それにもなつて苦しみもまた多くなる)。合せて八苦である。では、四苦八苦の根本の原因は何かと言え、全ては「欲望」から起こる。この世の中には大勢の人の幸せなど考へたこともなく、ただ自分の利害や名誉を追い求めて走り回っている人がいる。人間には限りない「欲望」がある。しかし、人が欲に溺れると勤が鈍くなる。気持ち不純になるからだ。人を押しつけて我が利益だけを迫つていっている人を「我利我利者」と言う。「亡者」とは、死後、あの世で成仏できずに地獄をさまざましている者のことである。では、どうすれば良いのか。中国の司馬温公という人が、家訓に、「子孫のために万巻の書を積んでも、子孫はそれを讀まないかもしれない。子孫のために大金を残しておいても、子孫はそれを守らないかもしれない。子孫をいつまでも榮させようと思えば、世の人々のために陰徳を積んでおくことが最も大切である」と書き残している。「陰徳」とは、「世のため人のために善いことをせよ。だが、黙つてやれ」ということである。世の人々の喜びは自分にかえってくるものだと思う。世の中に利口な人は多いが、なかなか成功しない人は「陰徳」を積まないからかもしれない。

日蓮聖人 遺訓(一一一五)

「一生が問答なりし人も 一言に身をほろぼすにや(兄弟鈔)」
一生、賢明に事を処して波風起こすことなく、順調に人生を過ごしてきた人でも、最後期のただ一言が仇となって身を亡ぼし、永年の功を台無しにしてしまふことがある。言葉が発したときその言葉には責任が伴う事を肝に銘じたい。

お釈迦様は「人生は苦である」と言われ、人生の苦を分類して四苦八苦を説いた。初めの四つの苦は、一、生老病死の四苦である。二、愛別離苦、三、怨憎会苦、七、求不得苦、(いくら求めても得られない苦しみ)、八、五蘊盛苦、(心身に精気がみなぎると色々な煩惱が起こる。昔い頃は元気が良すぎ、それにもなつて苦しみもまた多くなる)。合せて八苦である。では、四苦八苦の根本の原因は何かと言え、全ては「欲望」から起こる。この世の中には大勢の人の幸せなど考へたこともなく、ただ自分の利害や名誉を追い求めて走り回っている人がいる。人間には限りない「欲望」がある。しかし、人が欲に溺れると勤が鈍くなる。気持ち不純になるからだ。人を押しつけて我が利益だけを迫つていっている人を「我利我利者」と言う。「亡者」とは、死後、あの世で成仏できずに地獄をさまざましている者のことである。では、どうすれば良いのか。中国の司馬温公という人が、家訓に、「子孫のために万巻の書を積んでも、子孫はそれを讀まないかもしれない。子孫のために大金を残しておいても、子孫はそれを守らないかもしれない。子孫をいつまでも榮させようと思えば、世の人々のために陰徳を積んでおくことが最も大切である」と書き残している。「陰徳」とは、「世のため人のために善いことをせよ。だが、黙つてやれ」ということである。世の人々の喜びは自分にかえってくるものだと思う。世の中に利口な人は多いが、なかなか成功しない人は「陰徳」を積まないからかもしれない。

お釈迦様は「人生は苦である」と言われ、人生の苦を分類して四苦八苦を説いた。初めの四つの苦は、一、生老病死の四苦である。二、愛別離苦、三、怨憎会苦、七、求不得苦、(いくら求めても得られない苦しみ)、八、五蘊盛苦、(心身に精気がみなぎると色々な煩惱が起こる。昔い頃は元気が良すぎ、それにもなつて苦しみもまた多くなる)。合せて八苦である。では、四苦八苦の根本の原因は何かと言え、全ては「欲望」から起こる。この世の中には大勢の人の幸せなど考へたこともなく、ただ自分の利害や名誉を追い求めて走り回っている人がいる。人間には限りない「欲望」がある。しかし、人が欲に溺れると勤が鈍くなる。気持ち不純になるからだ。人を押しつけて我が利益だけを迫つていっている人を「我利我利者」と言う。「亡者」とは、死後、あの世で成仏できずに地獄をさまざましている者のことである。では、どうすれば良いのか。中国の司馬温公という人が、家訓に、「子孫のために万巻の書を積んでも、子孫はそれを讀まないかもしれない。子孫のために大金を残しておいても、子孫はそれを守らないかもしれない。子孫をいつまでも榮させようと思えば、世の人々のために陰徳を積んでおくことが最も大切である」と書き残している。「陰徳」とは、「世のため人のために善いことをせよ。だが、黙つてやれ」ということである。世の人々の喜びは自分にかえってくるものだと思う。世の中に利口な人は多いが、なかなか成功しない人は「陰徳」を積まないからかもしれない。

- ① 精気を増益する
- ② 身体を芳潔にする
- ③ 身体の温涼を調節する
- ④ 寿命を延ばす
- ⑤ 顔色をひきたてる
- ⑥ 精神を爽快にする
- ⑦ 耳目を鋭くする
- ⑧ 健康にする
- ⑨ 媚態と愛嬌をます
- ⑩ 品位を高める

が、右手で抹香をつまみ、軽く左手を添えて顔のところまでいただきゆつくりと一度乃至三度火中に薫するのが一般的です。

宝清寺年中行事

三月	彼岸中日・塔婆供養
四月	八日・花祭り
七月	十七日・孟蘭盆会供養
七月	彼岸中日・お施餓鬼法要
九月	十二日・お会式法要

日蓮宗の聖日

二月	十五日・釈尊涅槃会
二月	十六日・宗祖降誕会
四月	二十八日・釈尊降誕会
四月	二十八日・立教開宗会
五月	十二日・伊豆法難会
七月	十七日・身延御入山会
八月	二十七日・松葉谷法難会
九月	十二日・龍ノ口法難会
十月	十三日・池上御入山会
十一月	十一日・宗祖御会式
十一月	十一日・小松原法難会

御祈願・御供養

交商虫方除星安開
通繁盛安
厄位祈
運産祈
守守祭願除封願全

宝清寺では、花祭り（灌仏会）、お盆（盂蘭盆会）の施餓鬼法要、日蓮聖人のお会式を毎年盛大に厳修しております。
このほかにも諸祈願や自動車のお祓いや、年忌供養・祥月命日供養・月命日供養等も行っております。詳しくは寺務所までご相談ください。

橋墓苑管理料のご案内

一、郵便自動払込される方
橋墓苑の管理料を郵便自動払込されている方は、四月二十五日（月曜日）に引き落としされますので、口座残高をご確認ください。
毎年、三月下旬に管理料の自動引落を行っておりますが、寺務の都合上、昨年より四月下旬に変更させていただきますのでご注意ください。
二、多摩信用金庫で振込の方
「多摩信用金庫」を使用して管理料を納める方は、左記の口座にお振り込みください。
振込先・多摩信用金庫 秋川支店
口座・普通預金 一五一六二四九
名義・宗教法入 宝清寺
代表役員 石井前琮

三、管理料をご持参される方
墓参の折にご持参頂き、宝清寺寺務所までお納め下さい。
なお管理料は前納になっております。会計年度は四月から、翌年三月末日までとなっておりますのでご注意ください。
四、自動払込を希望される方
郵便自動払込をご希望の方は、宝清寺寺務所までご連絡ください。ゆうちょ銀行（郵便局）に提出する所定の用紙を当寺にてお渡しいたします。

五、管理料について
橋墓苑管理料は、墓苑の共有地における美化や、付帯施設並びに設備を維持管理するために使用しております。管理料をご持参される方は、お早めにご納入ください。ご理解とご協力をお願いいたします。

お札のご案内

年末・年始のお札

宝清寺では、年末に「お釜縮札」を頒布しております。「お釜縮札」とは、年末にお渡しする数種類のお札の総称で、台所の守護神（普賢三寶荒神）や不浄な場所を守護する（烏羽沙摩明王）などのことを言います。また、井戸をお持ちの方は、いつも清浄にお守りしていただける札や、しめ縄に付ける幣、束もご用意しております。年末になりましたら、またご案内いたしますので、ご希望の方は当寺までご連絡ください。詳細をお伝えいたします。

厄除け・星祭り

一年の節目は元旦ですが、仏教的には二月三日の節分をもって新年とします。この時期に来年の自分の年回りや星回りを見て、一年の安泰を祈願するものが「厄除け」や「星祭り」だと言われています。本年が前厄、本厄、後厄の方は、厄除けを、お勧めします。また、星回りは「九曜星」で判断し、本年が白星以外の方にお勧めいたします。本年、白星の方は、一白月曜星の女性、二黒日曜星の男性、四緑日曜星の女性、五黄月曜星の女性、六白木曜星の男性、九紫木曜星の女性で、それ以外の方は星祭礼をお勧めしております。
星の見方は「日蓮宗御宝鑑」より確認することが出来ますが、おわかりにならない方は宝清寺寺務所までご相談ください。

八幡大菩薩像奉納者

森川 英子様

八幡大菩薩像建立費用の一部にと、金一封の御奉納を頂きました。紙面をもちまして感謝の辞とさせていただきます。

仏様の話し

平成二十三年一月（第七十四号）の「たちばな新聞」の表面に掲載した、浄行菩薩の左右に給馬掛と縁起説明の立て札が完成いたしましたことをご報告しましたが、紙面の関係上詳しくご説明出来ませんでしたので、ここで報告させていただきます。

浄行菩薩縁起

浄行菩薩様はお釈迦様が説かれる最高の教えである『妙法蓮華経』に登壇し衆生を救済してくださいと誓った一人です。皆様の身体を清浄にしてくださる神通力をお持ちの菩薩様で、お地蔵様のなかでも最高位に位置する上座の菩薩様です。ご自分の身体の悪い部分を念入りに洗えば、浄行様が身代わりとなってその苦を引き受けてくださるのです。寺務所には、奉納用の「絵馬とたわし」をご用意しております。
「南無妙法蓮華経」と唱えながら「たわし」で念入りに洗ってください。絵馬の裏側には、お願したいことを書き入れて、右側の給馬堂に掛けて奉納してください。

縁起の立て札は佐藤清子様から御寄進を頂きました。紙面にて感謝の辞とさせていただきます。

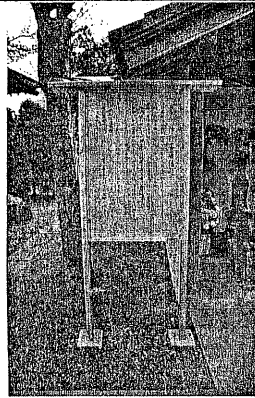
宝清寺の草花

宝清寺山門脇に枝垂桜があります。市指定の銘木になっており、満開に咲きほころび、そのような姿も毎年見られるものではなく、去年は三分咲いては散り、また三分咲いては散るような淋しい咲き方でした。

本年の開花予想では「平年並か少し早咲き」だそうです。桜の開花予想は「ソメイヨシノ」という品種で、枝垂桜よりは少し遅く咲く傾向があります。ソメイヨシノの見頃は三月三十一日から四月七日だそうです。で、天候に恵まれれば、四月八日の花祭りには枝垂桜を楽しむことができそうですが、例年ですと四月八日には散り始めています。また、日蓮聖人立像のまわりに植えてある牡丹の見頃は、四月中旬以降で、花祭りの時期には大きなつぼみしか見ることが出来ません。牡丹を楽しむにされている方は、四月中旬から下旬にかけていらっしやることをお勧めします。



お勧めします。



発行・水谷山宝清寺
住所・東京都あきる野市小川一〇一
電話・042-558-2663
FAX・042-558-2693
インターネット・ホームページ
<http://www.ab.auone-net.jp/~houseiji/>
メールアドレス
houseiji@ac.auone-net.jp